



本日はよくお参り下さいました

梅雨の最中、皆さまいかがおすごしでしょうか。ジメツとした陽気に、心も体も疲れやすくなっていませんか。先日縁あってバレエダンサーの森下洋子さんの踊りを拝見する機会がありました。だいぶお年だと聞いていたのですが、宙を舞うように軽やかな動きで、表情は少女のように純真で、生き生きとしていました。同じ舞台上で踊っていた若くてキラキラしたお弟子さんたちに、まったく引けを取らないどころか、長年の鍛錬の積み重ねや、舞台経験に裏打ちされた、自信と貫禄を備えた、それは素晴らしい踊りでした。大変失礼ながら、年齢の話をさせていただきますと、森下洋子さんは、現在御年70歳です。年齢のことは知らずに見ていたので、実年齢を知り、再び驚いてしまいました。人を感動させるということは、とてもむずかしいことです。最近感動することが減ってきた中で、人間の可能性の素晴らしさを、垣間見た気が致しました。今月も、みなさまのご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げます。権禰宜 道子



もうすぐ七夕ですね

7月

1日・15日 月次祭(つきなみさい) 皇室の弥栄と国家安泰、氏子崇敬者並に社会の幸福と平和を祈る。

2日 半夏生(はんげしょう) 夏至から数えて11日目の7月2日頃。梅雨の終期。

7日 七夕・小暑(しょうしょ)
この日から暑気に入り、暑中見舞いも出されるようになる。



半夏生(はんげしょう)

13日～16日 お盆 仏教の行事でありながら、仏教と関係のない要素も多分に含まれる日本独特の行事。日本に昔からあった祖霊祭の名残りといわれる。この期間にはお墓参りをするのが、ならわしである。

15日 海の日 海の恩恵に感謝するとともに海洋国日本の繁栄を願う日。この日に定められた由来は、明治九年明治天皇の東北地方御巡幸の帰途、灯台視察船(商船の汽船)「明治丸」をご利用になり、その船が無事横浜に帰還されたことである。



お盆のお供え、ほおずきは、提灯に見立てられます。

23日 大暑(たいしょ) 梅雨明けのこの頃は、ますます暑くなり、一年中で最も気温の高い酷暑の季節。

天神さまの豆知識

浜木綿

「み熊野の浦の浜木綿百重なす
心は思えど 直に逢わぬかも」

熊野の海岸に咲く浜木綿が幾重にも重なって咲いているように何十回とあなたのことを思い出しているが、なかなか逢えないものだ。



天神島の浜木綿

たこの歌には、愛しい人に会えない嘆きが歌われています。浜木綿の名は、七月から九月頃に咲く白く垂れ下がった花卉が木綿に似ていることに由来します。「木綿」は、楮の樹皮の繊維を蒸して水にさらし、糸状に裂いたもので、手向けの幣帛や、祭具の紙垂としても使われています。「み熊野」は常世の波が打ち寄せる聖地であり、ここに浜木綿が幣帛のごとく真白に咲いた状態に、神聖さを感じることが出来ます。また、木綿自体に、神々しさと美しさを見出すこともあります。

「治瀬女の造る木綿花 み吉野の

滝の水沫に咲きにけらずや」

(万葉集 卷六、九一二)。

「木綿」という字は、現代では「もめん」とも読みますが、もめんは戦国時代から江戸時代にかけて普及したも

のであり、浜木綿の名が使われた奈良時代以前には、一般的なものではなかったようです。

浜木綿は、水はけが良く日当たりの良い場所を好み、主に温暖な海浜で見られます。横須賀市内の天神島に自生する浜木綿は、自然分布の北限地として、神奈川県天然記念物として保護されています。浜木綿は黒潮にのって南方から分布を拡大した植物であり、夏の白砂青松の海岸にふさわしい清楚な花と言えるでしょう。参考文献『植物で見る万葉の世界』國學院大學「万葉の花の会」著 平成十六年九月八日「万葉花の会」事務局発行、『海から来た植物、黒潮が運んだ花たち』中西弘樹著 平成二十年六月二十五日(株)シナノ発行、

今月の言葉

『勇者は外をあらくせず』

貝原益軒「武訓」より

本物の勇氣ある者は、一見して穏やかな好人物に見える。荒ぶる必要がないからだ。力があり、自分の力量を正確に把握している者は、自分から他者との衝突を起すことはない。人の和を重んじ他者と衝突することなく立ち回れる者、自分を抑え、怯えることのない冷静さを備えた人物こそ、真の勇者である。引用・参考『神道のことば』武光誠監修 貝原益軒(一六三〇-一七一四) 朱子学者、博物学者。